



類型	対 象 疾 病		対 象 年 齢 等 ( 施 行 令 )	標準的な接種期間 ( 実 施 要 領 )	接 種 ワ ク チ ン 及 び 接 種 量	回 数	間 隔 (実施規則)	標準間隔 (実施要領)	方法	備 考
A	H i b 感染症		生後 2 月から生後60 月に至るまでの間に ある者	—	乾燥ヘモフィルスb型 ワクチン  0. 5ml	初回3回 (生後12月ま でに完了)	初回: 27 (医師 が認める場合 は20) 日以上	27 (医師が認 める場合は 20) 日～56日	皮下 注射	○初回接種開始時に生後 2 月から生後 7 月に至るまでの間にある者 ○上記対象者に対する方法を標準的な接種方法とすること。 ○ただし、初回接種のうち 2 回目及び 3 回目の接種は、生後12月に至 るまでに行うこととし、それを超えた場合は行わないこと。この場 合、追加接種は実施可能であるが、初回接種に係る最後の注射終了 後、27日（医師が必要と認めた場合には20日）以上の間隔をおいて 1 回行うこと。
						追 加 1 回	追加: 初回接 種終了後7月 以上	初回接種終了 後7月～13月		
						初回2回 (生後12月ま でに完了)	初回: 27 (医師 が認める場合 は20) 日以上	27 (医師が認 める場合は 20) 日～56日		
						追 加 1 回	追加: 初回接 種終了後7月 以上	初回接種終了 後7月～13月		
						1回	—	—		
						<接種間隔緩和に伴う経過措置について> Hib感染症の予防接種について、平成26年 4 月 1 日より前に、「間隔を超えた ための任意接種」を実施したことについても、医師の判断と保護者の同意に基 づき、既に接種した回数分の定期接種を受けたものとしてみなすことができ る。ただし、過去の任意接種を定期接種として取り扱うわけではなく、新規則施 行後に予防接種を実施する場合の考え方についての規定である。				
病	麻しん 及び 風しん	1 期	生後12月から生後24 月に至るまでの間に ある者	—	乾燥弱毒生麻しん風しん 混合ワクチン(MR) 乾燥弱毒生麻しんワクチン 乾燥弱毒生風しんワクチン	1回	—	—	皮下 注 射	○1期の予防接種は、できるだけ早期に接種する。 ○麻しん及び風しんを同時に行う場合は、MR混合ワクチンを使用する。 ○一度溶解したワクチンは、ウイルス力価減少を避けるために直ちに使用する。
		2 期	5歳以上7歳未満の者で あって、小学校就学の始 期に達する日の1年前の 日から当該始期に達す る日の前日までの間にあ るもの(小学校就学前の 1年間にある者)	—		1回				
		5 期	昭和37年4月2日から昭 和54年4月1日の間に生 まれた男性(風しんに係 る抗体検査を受けた結 果、十分な量の風しんの 抗体があることが判明 し、当該予防接種を行う 必要がないと認められる 者を除く。)	—		1回	—	皮下 注 射		



類型	対 象 疾 病	対 象 年 齢 等 ( 施 行 令 )	標準的な接種期間 ( 実 施 要 領 )	接 種 ワ ク チ ン 及 び 接 種 量	回 数	間 隔 (実施規則)	標準間隔 (実施要領)	方法	備 考
A  類	ヒトパピローマウイルス感染症	12歳となる日の属する年度の初日から16歳となる日の属する年度の末日までの間にある女子	13歳となる日の属する年度の初日から当該年度の末日までの間	組換え沈降2価ヒトパピローマウイルス様粒子ワクチン  0. 5ml	3回	2回目:1回目の接種から1月以上 3回目:1回目の接種から5月以上、かつ2回目の接種から2月半以上	1月の間隔を おいて2回、1回目の接種から6月の間隔を おいて1回	筋肉注射	<標準的な接種方法をとることができない場合> ○2価:1月以上の間隔を おいて2回行った後、1回目の接種から5月以上、かつ2回目の接種から2月半以上の間隔を おいて1回行うこと。(実施規則に基づく接種方法) ○4価:1月以上の間隔を おいて2回行った後、2回目の接種から3月以上の間隔を おいて1回行うこと。(実施規則に基づく接種方法) ○9価:1月以上の間隔を おいて2回行った後、2回目の接種から3月以上の間隔を おいて1回行うこと。(実施規則に基づく接種方法)
		15歳となる日の属する年度の初日から16歳に至るまでの間にある者		組換え沈降4価ヒトパピローマウイルス様粒子ワクチン  0. 5ml	3回	2回目:1回目の接種から1月以上 3回目:2回目の接種から3月以上	2月の間隔を おいて2回、1回目の接種から6月の間隔を おいて1回		
		12 歳となる日の属する年度の初日から15歳に至るまでの間にある者		組換え沈降9価ヒトパピローマウイルス様粒子ワクチン  0. 5ml	2回	2回目:1回目の接種から5月以上 5月以上の間隔をおけない場合、3回目の接種が必要	6月の間隔を おいて2回		
病	水痘	生後12月から生後36月に至るまでの間にある者	<初回接種> 生後12月から生後15月に至るまでの期間	乾燥弱毒生水痘ワクチン  0. 5ml	2回	3月以上	6月から12月	皮下注射	<平成26年10月1日より前の接種の取り扱い> 平成26年10月1日より前に、生後12月以降に3月以上の間隔を おいて2回接種した者は、定期接種として受けることはできない。 平成26年10月1日より前に、生後12月以降に1回接種した者は、定期接種を1回受けたものとみなすこと。 平成26年10月1日より前に、生後12月以降に3月未満の期間内に2回以上接種した者は、定期接種を1回受けたものとみなし、生後12月以降の初めての接種から3月以上の間隔を おいて1回接種を行うこと。 ○一度溶解したワクチンはウイルス力価減少を避けるため直ちに使用する。

類型	対 象 疾 病	対 象 年 齢 等 ( 施 行 令 )	標準的な接種期間 ( 実 施 要 領 )	接 種 ワ ク チ ン 及 び 接 種 量	回 数	間 隔 (実施規則)	標準間隔 (実施要領)	方法	備 考
A  類  疾  病	B型肝炎	平成28年4月1日以後に生まれた、生後1歳に至るまでの間にある者	生後2月に至った時から生後9月に至るまでの期間	組換え沈降B型肝炎ワクチン  0. 25ml	3回	2回目:1回目の接種から27日以上 3回目:1回目の接種から139日以上	—	皮 下 注 射	<対象者から除外される者> H B s 抗原陽性の者の胎内又は産道においてB型肝炎ウイルスに感染したおそれのある者であって、抗H B s 人免疫グロブリンの投与に併せて組換え沈降B型肝炎ワクチンの投与を受けたことのある者については、定期接種の対象者から除く。 <平成28年10月1日より前の接種の取扱い> 平成28年10月1日より前の注射であって、定期の予防接種のB型肝炎の注射に相当するものについては、当該注射を定期の予防接種のB型肝炎の注射と、当該注射を受けた者については、定期の予防接種のB型肝炎の注射を受けた者とみなして、以降の接種を行うこと。
	ロタウイルス	令和2年8月1日以後に生まれた、生後6週0日後から24週0日後までの間にある者	<初回接種> 生後2月に至った日から出生14週6日後までの間	経口弱毒生ヒトロタウイルスワクチン(ロタリックス®)  1. 5ml	2回	27 日 以 上	—	経 口 投 与	○出生15週0日後以降の初回接種については安全性が確立されておらず、出生14週6日後までに初回接種を完了させることが望ましい。出生15週0日後以降に初回接種を行う場合は、上記について十分に説明を行い、同意が得られた場合に接種する。 ○原則として同一ワクチンを接種する。ただし1回又は2回投与した後に転居した際、転居後の定期接種を実施する市町村において、いずれか一方の接種しか実施していない等の理由により、原則によることができないやむを得ない事情があると当該市町村長が認める場合にはこの限りではない。 ○接種後吐き出した場合でも追加接種はしない。 <対象者から除外される者> <ul style="list-style-type: none"> <li>・腸重積症の既往歴のあることが明らかな者。</li> <li>・先天性消化管障害を有する者（その治療が完了した者を除く）。</li> <li>・重症複合免疫不全症の所見が認められる者。</li> </ul>
		令和2年8月1日以後に生まれた、生後6週0日後から32週0日後までの間にある者		5価経口弱毒生ロタウイルスワクチン(ロタテック®)  2. 0ml	3回	27 日 以 上	—	経 口 投 与	<令和2年10月1日より前の接種の取扱い> 令和2年10月1日より前の経口投与であって、定期接種の経口弱毒生ヒトロタウイルスワクチン又は5価経口弱毒生ロタウイルスワクチンの経口投与に相当するものについては、当該経口投与をロタウイルス感染症の定期接種と、また当該経口投与を受けた者については、定期接種のロタウイルス感染症の経口投与を受けた者とみなして、以降の経口投与を行う。

類型	対 象 疾 病	対 象 年 齢 等 ( 施 行 令 )	標準的な接種期間 ( 実 施 要 領 )	接 種 ワ ク チ ン 及 び 接 種 量	回 数	間 隔 (実施規則)	標準間隔 (実施要領)	方 法	備 考
B 類 疾 病	インフルエンザ	①65歳以上の者 ②60歳以上65歳未満 の者であって、心臓、腎 臓又は呼吸器の機能 に自己の身の辺の日常 生活活動が極度に制 限される程度の障害 を有する者及びヒ免 疫不全ウイルスにより免 疫の機能に日常生活 がほとんど不可能な 程度の障害を有する 者	－	インフルエンザHAワクチ ン  0. 5ml	1回	－	－	皮 下 注 射	○B類疾病の予防接種を受ける努力義務は無く、かつ、自らの意志で接種を 希望する者のみに接種を行うものであることをあらかじめ明示すること。
	高齢者の肺炎球 菌感染症	①65歳の者 ②60歳以上65歳未満 の者であって、心臓、腎 臓又は呼吸器の機能 に自己の身の辺の日常 生活活動が極度に制 限される程度の障害 を有する者及びヒ免 疫不全ウイルスにより免 疫の機能に日常生活 がほとんど不可能な 程度のの障害を有す る者	－	23価肺炎球菌莢膜ポリ サッカライドワクチン  0. 5ml	1回	－	－	筋 肉 又 は 皮 下 注 射	○B類疾病の予防接種を受ける努力義務は無く、かつ、自らの意志で接種を 希望する者のみに接種を行うものであることをあらかじめ明示すること。 ＜対象者から除外される者＞ これまでに、23価肺炎球菌莢膜ポリサッカライドワクチンを1回以上接種した者 は、定期接種として受けることはできないこと。
	新型コロナウイルス 感染症	①65歳以上の者 ②60歳以上65歳未満 の者であって、心臓、腎 臓又は呼吸器の機能 に自己の身の辺の日常 生活活動が極度に制 限される程度の障害 を有する者及びヒ免 疫不全ウイルスにより免 疫の機能に日常生活 がほとんど不可能な 程度の障害を有する 者	－	別途厚生労働省より通知	1回	－	－	筋 肉 注 射	○B類疾病の予防接種を受ける努力義務は無く、かつ、自らの意志で接種を 希望する者のみに接種を行うものであることをあらかじめ明示すること。

(注)本計画は、予防接種法第5条、同施行規則第1条の2に基づくものである。

# 令和6年度定期予防接種（実施上の注意事項） 鹿児島県保健福祉部（施行日：令和6年4月1日）

注 意 事 項	そ の 他																																	
<p>○予防接種不適当者等 （予防接種法第7条, 施行令第3条の1, 施行規則第2条等）</p> <p>1 法の対象にならない者 （1）当該疾病にかかっている者又はかかったことのある者で当該予防接種を行う必要がない者（インフルエンザ又は新型コロナウイルス感染症にあっては、当該疾病にかかったことのある者を除く。）</p> <p>2 予防接種を受けることが適当でない者（接種不適当者） （1）当該予防接種に相当する予防接種を受けたことのある者で当該予防接種を行う必要がないと認められる者 （2）明らかな発熱を呈している者 （3）重篤な急性疾患にかかっていることが明かな者 （4）当該疾病に係る予防接種の接種液の成分によってアナフィラキシーを呈したことがあることが明かな者 （5）麻しん及び風しんに係る予防接種の対象者にあっては、妊娠していることが明かな者 （6）結核にかかる予防接種の対象者にあっては、結核その他の疾病の予防接種、外傷等によるケロイドの認められる者 （7）B型肝炎にかかる予防接種の対象者にあっては、HBs抗原陽性の者の体内または産道においてB型肝炎ウイルスに感染したおそれのある者であって、抗HBs人免疫グロブリンの投与に併せて組換え沈降B型肝炎ワクチンの投与を受けたことのある者 （8）ロタウイルス感染症に係る予防接種の対象者にあっては、腸重積症の既往歴のあることが明かな者、先天性消化管障害を有する者（その治療が完了したものを除く）及び重症複合免疫不全症の所見が認められる者 （9）肺炎球菌感染症（高齢者がかかるものに限る）に係る予防接種の対象者にあっては、当該疾病にかかる法第5条第1項の規定による予防接種を受けたことのある者 （10）その他予防接種を行うことが不適当な状態にある者（インフルエンザ予防接種は、次に掲げる「3」の(2)の者が該当）</p> <p>3 予防接種の判断を行うに際し、注意を要する者（接種要注意者） （1）心臓血管系疾患、腎臓疾患、肝臓疾患、血液疾患、発育障害等の基礎疾患を有する者 （2）予防接種で接種後2日以内に発熱のみられた者及び全身性発疹等のアレルギーを疑う症状を呈したことがある者で、インフルエンザワクチンの接種をしようとする者 （3）過去にけいれんの既往のある者 （4）過去に免疫不全の診断がなされている者及び近親者に先天性免疫不全症の者がいる者 （5）接種しようとする接種液の成分に対してアレルギーを呈するおそれのある者 （6）結核の予防接種にあっては、過去に結核患者との長期の接触がある者、その他の結核感染の疑いのある者</p> <p>○被接種者又はその保護者に対する接種後の注意事項の通知（実施規則第7条等）</p> <p>1 接種後、高熱、けいれん等の症状を呈した場合、接種局所の異常反応や体調の変化を訴える場合には、速やかに医師の診察を受けること。</p> <p>2 医師の診察を受けた場合には、速やかに当該予防接種を行った市町村長に通報すること。</p> <p>3 接種後は接種部位を清潔に保ち、接種当日は過激な運動を避けるよう注意すること。</p> <p>○ 他の予防接種との間隔については、下記の間隔をおいて行うこと。 （令和2年10月1日から変更になっている）</p> <table><tr><td>生</td><td>ワ</td><td>ク</td><td>チ</td><td>ン</td><td>→</td><td>生</td><td>ワ</td><td>ク</td><td>チ</td><td>ン</td></tr><tr><td>MR,</td><td>麻しん,</td><td>風しん</td><td></td><td></td><td>27日以上あける</td><td>MR,</td><td>麻しん,</td><td>風しん</td><td></td><td></td></tr><tr><td>BCG,</td><td>水痘</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>BCG,</td><td>水痘</td><td></td><td></td><td></td></tr></table> <p>※上記以外については、他のワクチンとの接種間隔に対する制限はない ※同一種類のワクチンを接種する場合において接種の間隔に定めがある場合は、その定めるところによる</p>	生	ワ	ク	チ	ン	→	生	ワ	ク	チ	ン	MR,	麻しん,	風しん			27日以上あける	MR,	麻しん,	風しん			BCG,	水痘					BCG,	水痘				<p>1 予防接種台帳（施行規則第3条） 予防接種を行ったときから5年間保存すること。</p> <p>2 接種対象者に対する通知（施行令第5条等） （1）公告を行うこと （2）個々の接種対象者又はその保護者に対し、下記事項について十分周知されるよう通知等により適当な措置をとること。 ア 予防接種の種類、予防接種を受ける期日又は期間及び場所、予防接種を受けるに当たって注意すべき事項、予防接種を受けることが適当でない者、個別接種に協力する医師等 イ その他必要事項 ・母子健康手帳の持参 ・予防接種の有効性・安全性及び副反応について ・当日は朝から子どもの状態をよく観察し、ふだんと変わりがないか確認すること。 ・予診票は責任をもって記入し、子どもの日ごろの状態をよく知っている保護者が連れてくること。</p> <p>（3）通知は適切な時期に発送する等配慮すること。</p> <p>3 注射筒、注射針及び多圧針は、被接種者ごとに取り換えること。</p> <p>4 予防接種は、市町村長の要請に応じて予防接種に協力する旨を承諾した医師が医療機関で行う個別接種を原則とすること。</p> <p>5 接種施設において、問診、検温及び視診聴診等の診察を接種前に行うこと。</p> <p>6 接種医療機関及び接種施設には、予防接種直後のショック等の発生に対応するために必要な薬品及び器具等を備えておくこと。</p> <p>7 予防接種を行った際、母子健康手帳に予防接種の種類、接種年月日及びロット番号等を記載すること。</p> <p>8 母子健康手帳を所持しない対象者に対して予防接種を行った際には、必ず予防接種済証を交付すること。</p> <p>9 あらかじめ「予防接種後副反応報告書」、「予防接種後副反応報告書記入要領」及び「コッホ現象事例報告書」を管内医療機関に配布すること。 医師は、被接種者が厚生労働省が定める症状を呈していることを知ったときは、独立行政法人医薬品医療機器総合機構（FAX:0120-176-146）に報告すること。</p> <p>10 予診票 予防接種が完了した日から、5年間保存すること。</p> <p>11 既罹患者については、未罹患疾病の予防接種を実施するために、未罹患疾病に対応するワクチン成分を含んだ混合ワクチンを接種することを可能とすること。 （ワクチン成分に対応する疾病の全てに罹患している者は除く。）</p> <p>12 長期にわたり療養を必要とする疾病にかかった者等の定期接種の機会の確保 「予防接種施行令第1条の2第2項」、「定期予防接種実施要領」を参照</p> <p>13 児童福祉施設等において、被接種者の保護者の住所又は居所を確認できないため保護者の同意の有無を確認することができない場合の取扱については、「児童相談所長等の親権行使による同意に基づく予防接種の実施について」（平成27年12月22日健発1222第1号他通知）を参照すること。</p>
生	ワ	ク	チ	ン	→	生	ワ	ク	チ	ン																								
MR,	麻しん,	風しん			27日以上あける	MR,	麻しん,	風しん																										
BCG,	水痘					BCG,	水痘																											